

鳴門日独友好協会 会報

鳴門日独友好協会

事務局 鳴門市市民生活部
文化交流推進課内
TEL 088-684-1150
FAX 088-683-0237E-mail
bunkakoryu@city.naruto.tokushima.jp

2025. 1. 発行

No. 23

ご挨拶

鳴門日独友好協会名誉会長・鳴門市長 泉 理 彦

2024年、鳴門市はリューネブルク市との姉妹都市盟約締結50周年に加えて、ドイツ館開館30周年並びに新庁舎の開庁を迎え、本市にとって新たなスタートとも言える大変喜ばしい一年となりました。

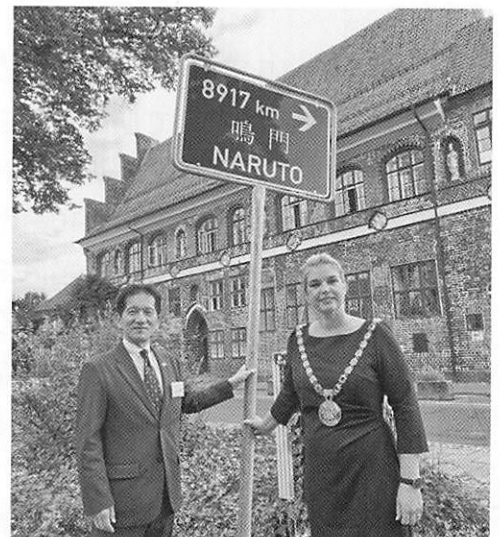
8月には、第24回鳴門市姉妹都市親善使節団の一員として、リューネブルク市を訪問いたしました。コロナ禍後初の使節団派遣となり、5年ぶりの団員募集の際には、世界情勢の変化や物価高騰など、いくつかの不安材料がございましたが、一般使節団には35名もの方にご参加いただきました。滞在中には、50周年記念式典等に出席したほか、両市民の皆様方に見守られる中、カーリッシュ市長と50周年記念確認書に署名し、未来に繋がる姉妹都市交流のますますの発展を決意したところでございます。

また、この度は、青少年使節団として過去最大人数の15名を派遣いたしました。未来を担う本市の青少年が、リューネブルク市での学校生活やホームステイを体験し、現地青少年と交流を深めて、帰国いたしました。外国語学習の重要性はもちろん、ドイツと日本の生活習慣の違いなどたくさんの気づきを得た彼らですが、帰国後、「私も未来の交流の懸け橋になりたい」「この経験を両市の長期的な交流につなげたい」といった嬉しい感想が聞かれました。交流のバトンを受け継ぐ青少年たちの言葉を頼もしく思うとともに、国際理解を深めた彼らの将来の活躍が期待されます。

11月には、本市においても50周年記念式典を開催し、これまで姉妹都市交流にご尽力くださった方々に、鳴門市より感謝状を贈呈いたしました。半世紀にわたり、活発な交流が継続できたのは、鳴門日独友好協会会員の皆様方をはじめとする両市民の熱心な取り組みのおかげであり、この機会に改めて感謝の意を表したところでございます。今後も官民一体となって、より一層、魅力的な交流が広がることを心から祈念しております。

本年は、第24回リューネブルク市親善使節団をお迎えする予定となっております。51年目となる両市の姉妹都市交流が、ますます実り多きものとなるよう努めてまいりますので、会員の皆様におかれましては、日独交流のさらなる発展のため、今後ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、鳴門日独友好協会のますますの発展と、2025年が皆様方にとりまして、幸多き一年となりますようご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



ご挨拶

鳴門日独友好協会会長 村澤 由利子

“鳴門日独友好協会” 会員・賛助会員の皆様、平素は、鳴門市・リュネブルク市姉妹都市運営にあたり、皆様には色々のご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年は、鳴門市がリュネブルク市と姉妹都市締結50周年を迎える記念すべき年となり、4月19日・20日にドイツ館で、「2024年度全国日独協会連合会年次総会」が開催され、ドイツからクレメンス・フォン・ゲツツェ駐日ドイツ大使、メラニー・ザクシンガードイツ総領事、ラルフ＝オリバー・ペルジケ大佐ご夫妻、フォルカー・シュタンツェル独日協会連合会会長、ヴァルター・ディームベックリュネブルク独日協会理事、ヨハン・アウバートトリアー独日協会会長、そして全国日独協会連合会より東原敏昭会長（小松島市出身）、八木毅前ドイツ大使、柚岡一明事務局長、各都道府県から沢山の会員の方がお見えになり、日独交流を深め、今後の発展を誓いました。20日には、同じくドイツ館で、「井上ゆかり（ソプラノ）、村澤由利子（ピアノ）によるコンサート&森清治ドイツ館長による講演会」がドイツ大使、総領事、大佐ご夫妻他沢山の会員や聴衆の中で開催されました。

また8月に、5年ぶりにリュネブルク市を第24回親善使節団として訪問することが出来ました。青少年（中高生）使節団15名と随行教員の山田庸介先生は、8月16日から25日まで10日間、私達一般使節団35名は8月22日から26日まで5日間、リュネブルク市を訪問し、カーリッシュ市長、ゲバル独日協会会長や、懐かしいリュネブルク市の皆さんと友好を温めました。

8月23日、午前中、青少年も合同で市庁舎

での歓迎式典に参加し「50周年記念確認書」へ両市長が署名、芳名録「金の本」に全員で記帳しました。昼食は「リュネブルク・ロータリークラブ」の招待で楽しい意見交換会があり、夜はリッターアカデミーで、戸田真介総領事も参加され「姉妹都市盟約締結50周年記念式典」が行われました。24日はアーメリングハウゼンや、ハイデを見物、25日はホームビジットで楽しい一時を経験、夜はレストラン「オイローパ」でお別れ夕食会があり、その際恒例のコーラス披露では、6回に亘る熱心な練習の成果もあり、素晴らしい合唱が披露出来たと思います。私も、これまで17回参加したとのことで、リュネブルク独日協会より「名誉会員」の称号を頂き、光栄でした。

その後私達25名は、スイスを回って楽しい旅を満喫、チューリッヒ、ルツェルンを観光した後、グリンデルバルトでは、素晴らしい山々の眺めを見ながら、世界遺産のユングフラウヨッホにロープウェイ「アイガーエクスプレス」で登り、スフィンクス展望台や氷の宮殿を



見学しました。宿泊したホテルのすぐ前にそびえる、雄大なアイガーの山々を見ながらの朝の食事は、今も忘れることが出来ません。ローザンヌでは、オリンピック博物館やローマ時代から栄えた市街地を散策、ジュネーブではレマン湖クルーズを楽しみ、31日、台風の中を関空に無事到着しました。

10月9日から16日まで、再び主人とドイツ、ベルリンを訪れ、「日独パートナーシップデイズ2024・ベルリン大会」(詳細:11ページ)に出席しました。私達二人はその後、12日の夜にベルリン・フィルハーモニーのコンサートに行き、久しぶりに日本では味わえないオーケストラと会場が一体となる素晴らしい音楽を体験し、これまで7回共演したベルリンフィルの仲間にも会えました。帰りの飛行機ではベルリンからミュンヘンまで、この大会に出席されていた八木毅前ドイツ大使と偶然席がご一緒でした。私達は今回のベルリン大会に出席して、素晴らしい思い出や、沢山のドイツの友人が出来た事は、今後の良い経験になりました。

11月22日、東京ドイツ大使館よりラルフ＝オリバー・ペルジケ大佐が、昨年に続き鳴門市を訪問、慰霊碑に献花をされました。私も、谷

副市長、木村正美慰霊碑清掃奉仕団会長や、当日お越し下さった鳴門日独友好協会会員の皆様、「ドイツ兵慰霊碑清掃奉仕団」の皆様方と一緒に献花をさせていただきました。木村正美会長や、清掃奉仕団の皆様のお陰で、慰霊碑は見事に清掃されて、これまでに無く輝いていました。清掃奉仕団の皆様、本当に有難うございました。

昨年は、特に「姉妹都市締結50周年記念」の年でもあり、ドイツとの交流が盛んに行われましたが、今年は10月にリユーネブルク市から再び、カーリッシュ市長、グバル会長をはじめ使節団の皆様が鳴門市を訪問されます。1年はあっという間に過ぎ、リユーネブルク市でお目にかかった皆様と、再会するのがとても楽しみです。

最後になりましたが、会員の皆様には、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げますと共に、事務局として、いつも私たち会員を陰ながら支えて下さいます鳴門市文化交流推進課の皆様、鎌畑課長様、昨年リユーネブルク市に同行して下さいました吉川副課長様、そして通訳として、使節団に最後まで同行して下さいましたダリオ・シュトライヒ様に、心より篤くお礼申し上げます。

ドイツ大使館空軍大佐らによるドイツ兵慰霊碑献花式

2024年11月22日、ドイツ大使館武官室ラルフ・オリバー・ペルジケ空軍大佐が鳴門市を訪問し、谷鳴門市副



市長とともにドイツ兵慰霊碑に献花しました。献花式には、村澤会長や和田副会長の他、当協会の木村会員が会長を務めるドイツ兵慰霊碑清掃奉仕団の皆様など多くの市民が集まりました。

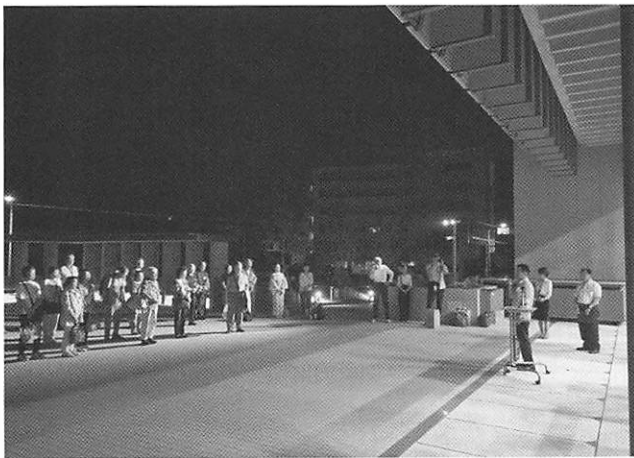


第24回鳴門市姉妹都市親善使節団 5年ぶりにリューネブルク市を訪問

姉妹都市盟約締結から50年の節目を迎えた2024年。5年ぶりに、鳴門市から親善使節団がリューネブルク市を訪問しました。使節団には、一般35名、青少年15名と随行教員1名が参加し、総勢51名での訪独となりました。

1日目

使節団のリューネブルク滞在は4泊5日で、一行は8月22日の夕方にハンブルク空港に到着しました。到着後、使節団はバスに乗り、リューネブルク市に向かいました。ホテルに到着してチェックインした後、使節団員は長旅の疲れを癒しました。



早朝、鳴門市から出発する使節団



ハンブルク空港に到着した使節団

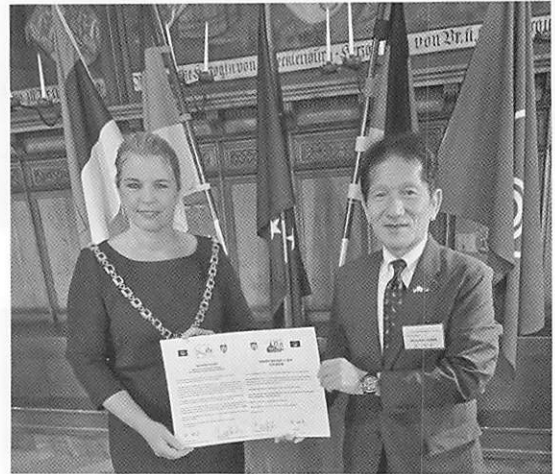
2日目

翌朝、使節団員はリューネブルク市役所前広場に赴き、カーリッシュ市長に出迎えられました。青少年使節団とも合流し、歴史ある市庁舎を背景に写真を撮影しました。その後カーリッシュ市長に市庁舎の「侯爵の間」へお招きいただき、使節団員と関係者、総勢100名で歓迎式典が行われました。カーリッシュ市長と泉市長によるご挨拶の後、両市長は記念確認書へ署名し、姉妹都市盟約締結50周年を祝うとともに、今後ますますの姉妹都市交流発展を目指す旨を表明されました。式典の後は市内の観光に出かけ、クラセン・ギャラリーを見学しました。また、リューネブルク・ロータリークラブとの昼食会を通じて、リューネブルク市民と親睦を深めました。

同日の夕方には市内にあるリッター・アカデミーにて姉妹都市盟約締結50周年記念式典を執り行い、集まった約130名の関係者を前に、両市長が記念品交換を行い、鳴門市とリュネブルク市の姉妹都市交流をさらに発展させることを誓いました。



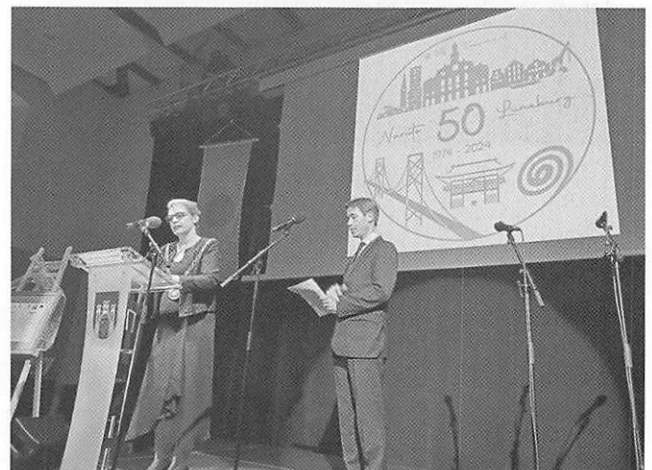
市庁舎前で集まった使節団



両市長が署名した記念確認書



リュネブルク・ロータリークラブとの昼食



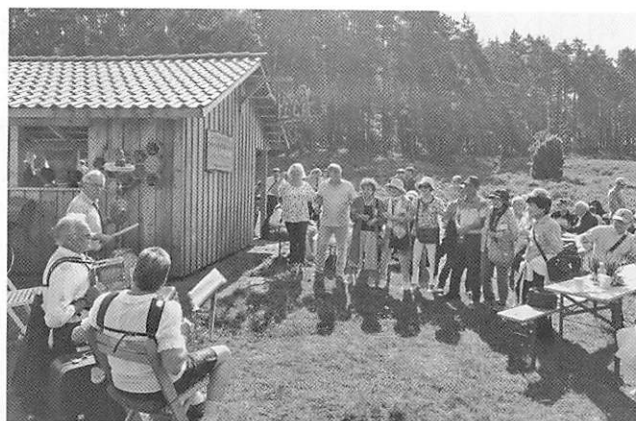
記念式典で挨拶されるカーリッシュ市長

3日目

翌24日は遠足の日。一般使節団員は、リュネブルク駅に向かい、「ハイデ・エクスプレス」に乗車しました。目的地は有名なリュネブルガーハイデ。アーメリングハウゼン町に到着してバスに乗り換え、ハイデ（荒野）へ行きました。そこで毎年地元の人から選ばれる「ハイデの女王」と面会し、地域の特産を生かしたケーキなどを楽しみました。昼食は歴史ある牧場のレストランで、ドイツの伝統料理ポテトスープをいただきました。夕方はレストランで民族舞踊を鑑賞した後、バーベキューを楽しみました。



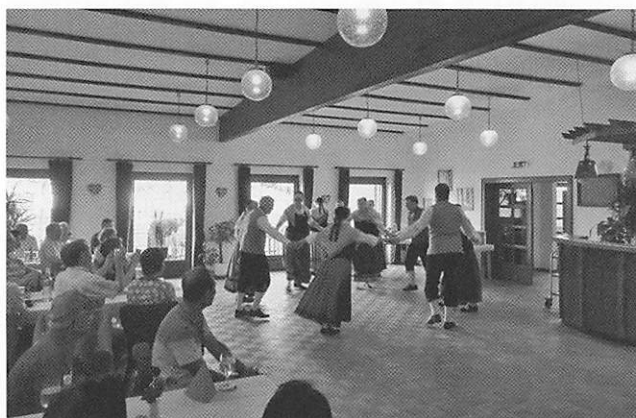
荒野へ走るハイデ・エクスプレス



荒野で民謡を楽しむ使節団員



ドイツのソウルフード：ポテトスープ



民族舞踊

4日目

25日は待ちに待ったホームビジット。使節団員はリューネブルク独日協会会員18家庭のホストファミリーに受け入れられました。観光名所を巡ったり、自宅に招待されたり、各家庭が趣向を凝らしたおもてなしを通じて、使節団員と友好を深めました。リューネブルク滞在最終日の夜は、リューネブルク独日協会主催のお別れ夕食会に出席。鳴門日独友好協会会長として長年親善交流に尽力され、今回が17回目の使節団参加となった村澤会長にリューネブルク独日協会から名誉会員の称号が贈られました。食事をとりながら、日本とドイツの合唱演奏により、会場に集まった方々が和やかな空気に包まれました。フィナーレは恒例の阿波踊りです。音楽が流れると、自然と皆が踊り始め、会場内の盛り上がりが高潮となったところで夕食会は閉会しました。



合唱披露（徳島新聞社提供）



フィナーレの阿波踊り

5日目

日の出前の早朝、ホテルの入口にはホストファミリーを中心に多くのリュネブルク市民が見送りに来られました。あちこちで別れを惜しむ声が聞かれ、再会を約束した使節団一行は、ドイツ国旗を振りながらリュネブルク市を出発しました。



カーリッシュ市長の
お別れの挨拶



お別れ

青少年の滞在

青少年ら16名は、8月16日に鳴門を出発し、同日の夕方にハンブルク空港に到着しました。週末は各家庭で過ごしたり、遠足でハンブルクへ遊びに行ったりし、ホストシスター・ブラザーと仲良く、時間を楽しみました。19日からは学校生活が始まり、日本の学校との違いなど、異文化について様々な発見があったようです。23日はホストファミリーらと、ドイツ人捕虜が板東俘虜収容所で披露したドイツのスポーツ、ファウストバルを体験しました。学校や観光、スポーツなどを通じて、ホストファミリーや学校の生徒と知り合い、友情を育んだことで、両市の青少年の視野は広がり、有意義な青少年交流となりました。



滞在初日の市内散策



ヴィルヘルム・ラーベ校の授業



Das japanische Jugendteam aus Lindenburg-Pittensen hat bei der Fußball-EM in der Halle in Lindenburg...

Völkerverständigung über den Sport

ファウストバル体験の現地新聞記事



ホストファミリーと涙のお別れ

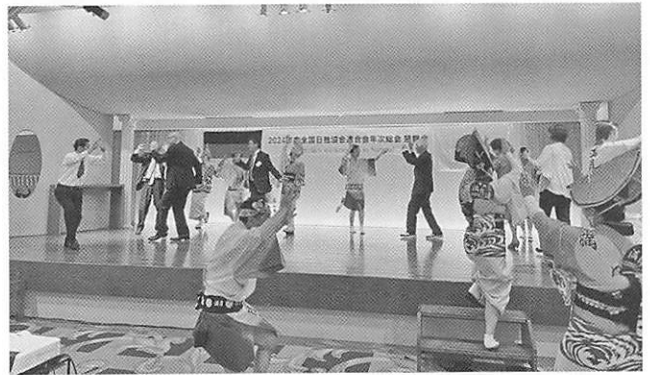
2024年度全国日独協会連合会年次総会開催

リューネブルク市との姉妹都市盟約締結50周年を迎えたことを記念して、当協会が所属する「全国日独協会連合会」の2024年度年次総会が、初めて鳴門市で開催されました。2024年4月18日～20日の期間、フォン・グッツェ大使やザクシンガー総領事をはじめ、国内19の日独協会及びドイツから4団体の関係者の皆様が本市にお越しください、総会等関連事業が盛大に開催されました。リューネブルク日独協会からは、役員のヴァルター・ディームベックさんが協会を代表して出席されました。

4月18日には、海鮮市場魚大将で前夜祭を開催し、県外からお越しの皆様にも鳴門の海鮮料理を楽しんでいただきました。翌日には、ドイツ館にて総会を開催。村澤会長のピアノ伴奏で、ソプラノ歌手・井上ゆかりさんによる日独両国の国歌独唱が会場に響き渡ると、割れんばかりの拍手が贈られました。その後、議題に関する議論や各地日独協会の報告などが活発に行われました。同日の夜には、アオアヲナルトリゾートにて、懇親会を開催。会の最後は、阿波踊りで大いに盛り上がり、当協会会員を含め、70名近くの出席者が交流を深めました。

最終日は、ドイツ館を見学したあと、井上ゆかりさんと村澤会長によるコンサート及び「徳島の中のドイツー慰霊碑に導かれた日独交流ー」と題した森清治ドイツ館長による講演会を開催し、午後には、ドイツ村公園にてドイツ兵慰霊碑に献花を行いました。

同年次総会の開催により、当協会会員が全国の日独協会の活動状況を知り、全国の熱意ある日独交流関係者の皆様と交流を深めることができたとともに、本市の日独交流のルーツについて多くの方に知っていただく貴重な機会となりました。



Auf der Lüneburger Heide

副会長 和田 健 史

リューネブルガーハイデは市中心部から西南部へ30kmぐらいのところから広がる広大な荒地である。

その昔、森林の伐採で土地が枯渇したらしく、エリカと僅かの灌木が生えているくらいであるが、8月にはエリカが赤紫の花を咲かせるため、大勢の観光客が集まって来る。去年は姉妹都市盟約から50周年という記念すべき年であり、訪問団を受け入れる市の対応にも熱がこもっており、プログラムの一つとして今回は特別仕立てのノスタルジー列車で移動し、ハイデの散策を企画していただいた。リューネブルクからアーメリングハウゼンまで交通愛好家協会が観光客向けに運行しているが、70年前に製造された車両を修復して使っている。途中、乗務員の代表から客室の我々にこの路線やいきさつについて説明していただき、古き良きものを積極的に保存しようとする姿勢を感じ取った。

駅からハイデまではすぐ近く、クローンベルクというところでハイデの散策を行った。自然保護区になっていて車は入れず、歩くか馬車に乗ることになる。長身で美人のハイデの女王とその従者が歓迎してくれ、その傍らには楽団がいて、奏でる歌と音楽は真っ盛りのエリカの丘とマッチして非常に心地よいものであった。

休憩小屋で買ったアイスクリームも素朴な味

がして美味しい。女王と従者たちと記念写真を撮ったり、踊ったり本当に楽しいひと時であった。

独日協会主催のお別れ夕食会に備えて、我々はドイツの歌、日本の歌を何曲か練習してきたが、最初の曲は「Auf der Lüneburger Heide」にしていた。

指導の村澤先生から絶えず、この歌は明るく元気に歌いましょうと言われていたが、このような環境や雰囲気の中で歌う若人の歌としては、その理由が分かる気がする。

ハイデでの楽しい散策のあと、一行はバスで昼食会場「カフェ・イム・シュパイヒャー」に向かった。昔はこの辺で萱が採れたらしく、茅葺の古風な民家を食事ができるカフェにしている。屋根の端っこの、日本でいえば鬼瓦に相当する所に二頭の馬が組み合わさった造形物があった。魔除けか飾りが分からないが、ニーダーザクセン州の田舎の屋根でよく見られる。ハイデの楽しい散策のあとに飲むビールは実に旨い。

リューネブルクでの実質滞在期間は三日間であるが、訪問するたびに毎回よく練られたプログラムで迎えていただけるものだと思う。市の担当者の方々にお礼を申し上げたい気持ちである。最終日の明日は、ホームビジット、毎回ながら楽しみである。



リューネブルクの街並み

貴 志 實

関空を朝に出発し、機内食を2回食べて、ホテルに着いたときはもう夜になっていた。翌日の朝、ホテルの窓から外を見ると街路樹は大きくよく茂っている。ホテルのロビーは別棟だったので、外に出て石畳を踏みロビーへと移動する。この石畳は50周年記念行事が行われる市庁舎や市内観光をする街並み全体を覆っているようで、つまづくこともなく歩ける。路地裏も、車が通れる車道もすべて人の手によって造られた石畳である。どんな風に工事をしたのだろう。感心させられる。リューネブルク市は13世紀、ハンザ同盟都市の一つとして塩がとれたことで発展したと言われる。この町で人や荷車が動きやすいように考え出されたのが石畳の道なので

あろう。その道は何度も修復されながら現在まで続いているのは素晴らしいと思った。日本ならすぐにアスファルトで覆ってしまっただろう。また、街並みには電柱がない。法律で決められているという。電気工事などは石畳をとって工事をし、そして元に戻すということで時間がかかるそうである。リューネブルクでは、赤レンガと木組みの街並みが綺麗に保存され中世そのままの美しい風景が残されている。私の近所でも、空き家が増え継承が課題になっているが、リューネブルクの街並み保存から、鳴門市の撫養街道の景観や街並み保存について考えさせられた。

エルベ川の畔で学んだこと

貴 志 知恵子

リューネブルク滞在3日目は、ホームビジットの日であった。ホストファミリー宅に到着後、最初に、エルベ川の畔にある「ユネスコの生物圏多様性センター」に連れて行ってくれた。この展示は、エルベ川の過去と現在、生き物の生息を守る取り組みなどについて、オーディオ機器を駆使し分かりやすく説明している。そこは、子ども達も遠足等で、よく訪れるらしく、環境について学ぶことができる多くの体験型展示があった。エルベ川はヨーロッパ有数の魚類が豊富な川であったがダム建設や産業汚染の結果、魚類が少なくなってきたようだ。水草は渡り鳥や水鳥にとって重要な場所で、ビーバーやカワウソの生息地でもあり100組以上のコウノトリが繁殖していたらしい。エルベ川はツンドラから渡ってくる渡り鳥の休息地や避難所になっている。リューネブルクと鳴門は、コ

ウノトリの繁殖を目指している点で共通点があることを再確認した。コウノトリのエサとなる小魚、カエル、昆虫など自然体系を大切にすることを共通課題として学んだ。帰りには、ホストファミリーから「ユネスコ生物圏保護区エルベ川の風景」の分厚い写真集をいただいた。私





は、鳴門市が進めるEM菌を活用した川の浄化活動ボランティアに参加しているが、これからもリューネブルクの取組を参考に、持続可能な形で環境改善や動植物の保護をしていきたい。

今年は、訪鳴したいと言ってくれたホストファミリーをどのようにもてなすが、今から色々と考えてワクワクしている。

日独パートナーシップデイズ2024・ベルリン大会に 村澤会長ご夫妻が出席

10月10日から13日まで、ドイツのベルリン日独センターにおいて、「日独パートナーシップデイズ2024：多様性・ネットワーキング・持続可能性」が開催されました。これは、ドイツの独日協会連合会が、全国日独協会連合会と協力して開催したもので、日独両国から150名以上が参加しました。当協会からは、村澤由利子会長とご主人の村澤正甫会員が出席しました。



イベントレポート：会長 村澤 由利子

主人とベルリンを訪れ、「日独パートナーシップデイズ2024・ベルリン大会」に出席しました。10月のベルリンは寒く日本の真冬でした。

前回は6年前に「石川大会」が開催され、コロナのために間が空いたとのことでした。シュタンツェル独日協会連合会会長を始めドイツ国内の会員、日本の各地から40名ほどの会員が出席、ベルリン日独センターで10月10、11、12日の3日間開催されました。



日独センターは日本庭園もあり、10日の開会式には現地の方の素晴らしい和太鼓の演奏があり、午後はベルリン観光を楽しみ、夜はベルリン日本大使館で、レセプションがあり、日本食を楽しみながら素晴らしい日独の交流会がありました。11日は、それぞれ意見交換会があり、私も、鳴門市の俘虜収容所について、「鳴門市とリューネブルク市の姉妹都市盟約締結50年」に亘る友好関係、「鳴門市ドイツ館」について等発表しました。会では、イヤホンによる同時通訳が付いていました。

夜は「サムライ美術館」へ。ここにはドイツ人が日本の鎧や兜、刀などを収集した素晴らしいコレクションがあり、蜂須賀家の鎧兜もあるミュージアムで、再び和太鼓、三味線、剣道などを現地の方が披露、とても見応えのあるレセプションでした。

12日は、今後の日独協会の進め方等が議論されました。



R6年度 ドイツ兵慰霊碑清掃奉仕団 活動日記

ドイツ兵慰霊碑清掃奉仕団会長 木村正美

(1) ドイツ兵慰霊碑清掃奉仕団主催『慰霊碑周辺草刈り』実施

令和6年8月24日(土)AM9:00より、ドイツ兵慰霊碑周辺の草刈りを会員約50人が参加して実施しました。

夏場は特に草が繁茂して、景観を損ねたりしており、8月31日に、ドイツ兵慰霊碑建立105周年の献花式を迎えるにあたり周辺を綺麗にして式典をしたいと考え実施をしました。しかし、猛暑日で、暑かった(;_^A)



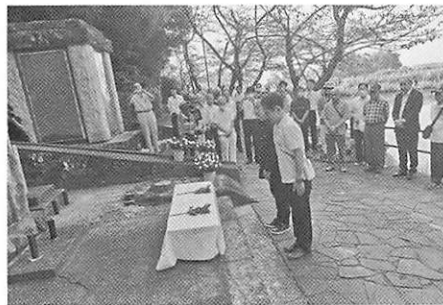
草刈り



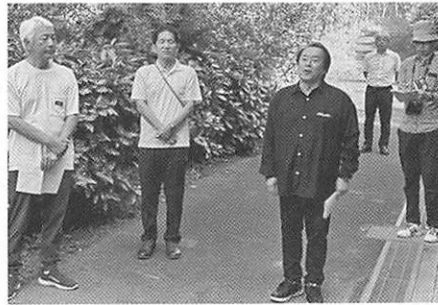
草刈り後の記念撮影

(2) ドイツ兵慰霊碑清掃奉仕団主催『建立105年献花式』開催

令和6年9月8日(日)『建立105年献花式』を実施致しました。8月31日(土)に実施予定でしたが、ノロノロ台風の影響を受けて開催日が二転三転、泉市長様に公務スケジュールの調整をして頂き、9



105周年献花式

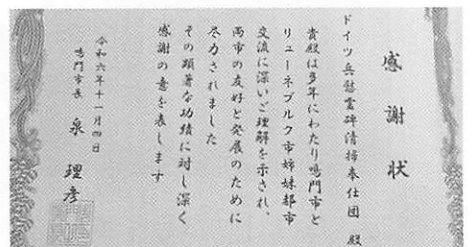


105周年献花式典

月8日(日)AM9:00より泉市長様や市文化交流推進課の職員、ドイツ兵慰霊碑清掃奉仕団の会員約40名の参加で、105周年献花式を行いました。今後も会員一同で清掃奉仕を続け、『博愛の精神』の継承をしていきたいと思いました!

(3) 鳴門市・リュウネブルク市姉妹都市盟約締結50周年記念式典で表彰されました!

令和6年11月4日(月)PM1:30よりドイツ館で開催された、鳴門市・リュウネブルク市姉妹都市盟約締結50周年記念式典に於いて、ドイツ兵慰霊碑清掃奉仕団が表彰されました。



(4) ドイツ大使館より、ペルジケ空軍大佐が、献花に来鳴

令和6年11月22日(金)PM1:30より、ドイツ兵慰霊碑にて、在日ドイツ大使館より、ペルジケ空軍大佐が来鳴され、谷鳴門副市長様、村澤鳴門市日独友好協会会長や会員の方々、ドイツ兵慰霊碑清掃奉仕団の会員が参加して、慰霊碑への『献花式』が行われました。ペルジケ大佐より、日本語で『当

時は敵対国だった人の慰霊碑を丁寧に維持してくれていることに感謝し、日独友好が更に深まることを願う』との挨拶を頂き、ドイツ兵慰霊碑清掃奉仕団に対しても、挨拶の中で感謝の言葉を頂きました。献花式終了後お声掛けを頂き、ドイツ館で、ペルジケ大佐、村澤鳴門日独友好協会会長と木村、森ドイツ館館長、通訳2人の6人で、紅茶を飲みながら、ざっくばらんな茶話会をし、今年のペルジケ大佐の来鳴は、2泊3日を予定してくれるようで、より鳴門市の住民と触れ合う機会をつくり、更なる友好を深めたいとの提案がペルジケ大佐よりありました。今年は、盛り上がりそうですよ！



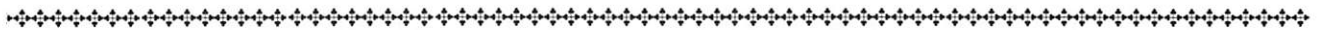
献花式



ペルジケ大佐と参加者で記念撮影

2018年11月21日にドイツ兵慰霊碑清掃奉仕団を立ち上げ、会員の皆様の『博愛の精神』により、今年で7年目を迎えることができ、去年1年間で、ドイツ兵慰霊碑清掃奉仕団の会員（14の団体と個人11人）で、約40回のドイツ兵慰霊碑の清掃を実施させて頂きました。

今世界中で、多くの戦争や紛争が勃発しております。こんな時代だからこそ、私たちが実践している奉仕活動における『博愛の精神』の大切さを、この板東の地より世界に発信していきたいと思っております！



心の旅

小林ドューリッチとも子

2024年8月、鳴門市とリューネブルク市の姉妹都市盟約締結50周年を祝うために、親善使節団に参加した。リューネブルク市とリューネブルク独日協会は訪問を歓迎し、多彩なプログラムでもてなしてくれた。

初日、市庁舎で泉理彦市長、クラウディア・カーリッシュ市長による、50周年を記念する確認書への署名を、大勢の参列者と共に夫の傍らで見守った。振り返れば1974年、同じリューネブルク市の市庁舎で、谷光次市長とアルフレート・トレープヒェン市長が姉妹都市盟約締結を交わした。当時、その調印式にリューネブルク市民として立ち会った夫には、ことさら感慨深い瞬間だったと思う。

楽しかったのは、ノスタルジック列車で行くハイデ散策。青空の下、どこまでも広がる美しいエリカの花を見ながら、古楽器の音色に合わせ、互いに腕を組んで“リューネブルガーハイデ”を合唱した。「人が歌を歌っていたら、そ

こに静かに腰を下ろそう。人が何を言おうと恐れることはない。人が歌を歌っているところでは強盗にあうことはない。そのような悪人は歌を歌わないから」。かつて聞いた、ウルリヒ・メドケ前市長の印象的なスピーチが甦る。

滞在をとおして、この長い歴史を築いた先人の努力に思いをはせ、皆で節目の年を寿ぎ、そして、未来への扉がゆっくりと開くのを見届けることができた。

中世から続く古い街並みを歩くと、風に乗って遠い記憶が優しく語りかけてくる。

リューネブルク市と私との係わりは2001年の第九里帰り公演にはじまったが、以来今日まで、独日両国の誠意ある人たちが私を支えてくださった。そして、その出会いが世界を広げてくれた。目には見えない不思議な力に導かれ、たどりついた今回のリューネブルク市訪問は、私にとって感謝を表す心の旅でもあった。

第24回鳴門市姉妹都市親善使節団に参加して

柴田 厚誠・文子

『鳴門市・リュネブルク市姉妹都市盟約締結50周年』の節目の年に、濱川信裕さんのお誘いで太宰府市より参加させて頂き、鳴門日独友好協会の皆様に感謝申し上げます。

8月23日、リュネブルク市庁舎前での記念撮影後、同市庁舎『侯爵の間』での歓迎式典では、50周年に相応しく会場の壁には時代を感じさせる数々の肖像画。その下には繊細な彫刻欄間。上を見上げると天井、梁には無数の絵・彩色。宗教観漂う数々のシャンデリア。外部は石・煉瓦づくりでも内部には大きな木材で作られた日本で言うところの国宝のような市庁舎でした。その格式高い雰囲気の中で、音楽の国らしくチェロのデュオの演奏で式が始まり、両市長のスピーチ、確認書への署名、通訳も含め合間にチェロの演奏（写真有）が有ったりで、ドイツ式の儀式は初めての体験で、決まった進行役もなく粛々と進められ新鮮でした。いよいよ芳名録『金の本』へ、手が震えながらも記帳し会場の雰囲気と共に感慨深いものでした。式が終わり会場の熱気、気温が少し高かったこともあり、会場脇に冷たい飲み物が用意されていたのが嬉しかったです。



お昼は『リュネブルク・ロータリークラブ』のご招待でご馳走になり、こちらの会場も歴史を感じさせ、ドイツのお店で初めて頂く食事で、

小柄な妻たちは量の多さにビックリで、私は慣れない翻訳アプリを試す機会となり、慣れたら会話が弾みそうでした。

同夜、リッターアカデミーでの『姉妹都市締結50周年記念式典』ではたいへん多くの来賓の方がドイツ国外からも参加されていて、テーブルには日本人の通訳の方も同席され、「これだけの規模の式典は経験がない」と言われ、歓迎ぶりが伺えました。携帯の翻訳アプリを何とか駆使しながらも国境を感じさせない交流ができ、お話をしている印象に残ったのはドイツ国外でも「陸続きなので直ぐに来られる」とのことでした。島国日本では難しいことだと思いました。また、独日の友好に携わっている鳴門市元国際交流員と職員のシュトライヒさんの表彰式では、これからも末永い友好が続けられると感じました。

1日置いて25日、ホームビジット先のフォルトミュラーさんのご案内でアウトバーンに乗って高さ38メートルをも超えるシャルネベックシップ リフトを見学、リュネブルク市散策、お昼は1485年から営業しているビアハウス『クローネ』でご馳走になり、特に“黒ビール”が気に入りました。その後お宅へ伺い、庭には鯉や金魚の池。狸の置物。お家の部屋には日本の品物を集めた一室を設けてあり一斗の菰樽や筆・硯、暖簾などを収集しており、日本らしさを感じ嬉しく、懐かしく、手作りのブルーベリーケーキとコーヒーをご馳走になりました。

夜の『独日協会主催お別れ夕食会』では、ドイツに来てお世話になった方々もお見えで、改めてプレゼント交換とお礼申し上げますが出来、『歌』や『阿波踊り』で盛り上がった名残り惜しい『夕食会』でした。

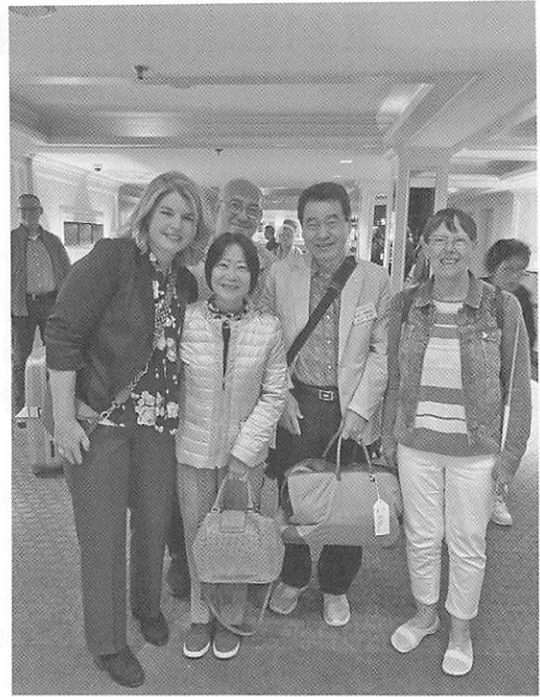
26日のお別れ会には早朝にもかかわらず

カーリッシュ市長、職員の方々、フォルトミューラーさん、独日協会の方々がお見送りにお越しくださり、記念に写真撮影させていただきました（写真有）。

鳴門市のこれまで交流してきた青少年使節団の方々には、是非、いつの日か経験を生かしてこの交流を担って、受け継いでいただきたいと思えます。

鳴門日独友好協会の名誉会長の泉理彦市長、村澤由利子会長、鳴門市の皆様。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。泉市長が台風の影響で一足早く帰られ、ゆっくりお話が出来なかったのが残念でした。

今後『ふるさと納税』等でも応援させていただく予定です。



「石の文化と歴史」の香りを感じて

立本洋美

2017年3月にベートーヴェン第九交響曲里帰り公演で初めてドイツへ行きました。戦争の被害をほとんど受けていないリュネブルク旧市街は、どちらを向いても、どこを切り取っても絵葉書になるくらい美しく、丸い石畳を踏みながら「石の文化」を身体で感じ、できることならまたこの場所へ立ちたいと思いました。

市の使節団としては、初めての参加です。

若い頃のようなおひとり様行動では不安になり、市役所集合、解散と聞き、もろ手をあげて連れて行っていただきました。

50周年ということで行事予定もぎっしりでしたが、ホームビジットの方に「塩の博物館」へ案内され、ただただ驚き、鳴門も塩業で栄えましたが、規模が違う！一軒一軒単位と街をあげての製塩所は統一された製造工程で大量に製産され国境を越えて発展するとはこういう事なのだとわかりました。燃料の木材を切り出したリュネブルガー・ハイデはみどり豊かでエリ

カが咲きほこり荒野とは名前ばかり。私は小説「嵐が丘」のヒースが咲くだけの荒れた土地？見てみたいけど興味のない場所でしたが、自然保存され素晴らしい「ハイデ」に変身していました。

夕食会で国際交流員の前任者のリリ・ブシュミンさんと再会できました。ボランティアでのドイツ語講座に途中参加のおちこぼれの高齢者の私を指導して下さい、なおかつ覚えて下さり感激しました。（高島御夫妻、鈴木氏と私の4名とも話げできました。）

また通訳の方がロイファナ大学で第九の演奏会でオーケストラの一員として演奏されていたことにびっくり。初対面なのにまるで大昔からの友達であるかのように、懐かしさと嬉しさで手を取りあってはしゃぎました。

今回はドイツだけで帰りましたが満足でした。

第24回鳴門市姉妹都市親善使節団に参加して

鈴木 一之・麗子

予てより知人から訪独の誘いがありましたが、仕事と家庭の事情で実現できていませんでした。今回、第24回鳴門市姉妹都市親善使節団に応募したのは使節団のスケジュールが日程的にあったので、いい機会と考え夫婦で参加いたしました。

この度の訪問では、リューネブルク市郊外のマイヤー夫妻と旧市街にお住いのヘンシュケ夫妻、それぞれのお宅を訪問いたしました。マイヤー夫妻とは2000年からの知り合いで、2007年に私がドイツに行った際にお宅を訪問したことがあります。それ以来の再会で、お二人は大変喜んで、暖かく迎えてくれました。ご自宅の周辺を案内していただき、昔話などで楽しい時間を過ごしました。以前訪問した時よりも庭の樹木が大きくなっていましたが、庭はご主人が手入れしているとのこと、大きくなった木はご主人が切って冬の暖炉の薪きにしているとのこと。周りを見渡す限りジャガイモ畑が広がっており、北海道の様でうらやましい限りです。



(写真1)

ヘンシュケ夫妻は最終日に事前にホームビジットに予定されていた方で、ご夫妻とは今回が初対面でしたが、初日から空港に出迎え等、滞在期間中はいろいろとサポートしてくださいました。ホームビジットの日、午前中はリューネブルク市街の建物を見て回り、建築家の目線で、説明をしてくださいました。午後は旧市街にあるご夫妻宅を訪問、住宅内部を拝見させていただきました。通りから見た時の印象ではそんなに部屋数はないように感じましたが、内部は結構部屋があり、住みやすそうなお宅でした。いろいろと部屋の改装をしているそうです。3階の書斎部屋からは窓越しに旧市街の屋根が見え、その奥に聖ミヒヤエル教会があって、中世ドイツにタイムスリップしたかの様ないい雰囲気、癒されました。(写真1)

今回のリューネブルクでのイベントでは、市庁舎での歓迎式典での芳名録への記帳がまたとない貴重な体験となりました。また、リューネブルガーハイデへの遠足はノスタルジー列車での移動とハイデの散策がとても楽しく、いい思い出ができました。(写真2)

今回の訪問に際し、準備、対応していただいた方々には、大変世話になりました。おかげで心に残る旅となりました。



(写真2)

「日独パートナーシップデイズ2024」に参加して

村澤正甫

昨年10月10日より13日までの3日間、ドイツの首都ベルリンで開かれた、両国の日独友好協会の合同会議としての「日独パートナーシップデイズ2024」に、鳴門日独友好協会会長の妻と共に参加しました。10月9日に関西国際空港を出発、時差のためにドイツには現地10月9日にミュンヘン空港を経由して、ベルリンには夕刻7時過ぎに到着しました。

翌朝はホテルで朝食後、市内バスで会場の「ベルリン日独センター」に向かいました。センターは、中心部より西南方向のポツダムに近いダーレム地区にあります。約30分のバス乗車で、定刻前にセンターに着き、参加手続きをして、その後の予定を聞きました。

午後は日本から参加した会員16名でベルリン市内観光をしました。日独センターから市内中心部に向けて貸切バスで移動。東西ドイツ時代のベルリンの名残を見て説明を聞き、34年前、ドイツ留学中にベルリンの壁が壊され、東西ドイツがひとつになるのを見た時のことを思い出しました。8年前にもベルリンに行きましたが、その時と同じようにクアステンダムの繁華街の通りは賑やかで、多くの人が行き来していました。中心部のカイザーウィルヘルム教会周辺は新しい建物が増え、ブランデンブルグ門までの道路は車が溢れています。門の周辺は、直前にペンキ塗り事件があったので、厳しく警備されていました。隣にある国会議事堂へはバスを降りて歩いてゆき、中へは入らずに外から見学しました。旧東地区のベルガモン博物館や、ベルリン歌劇場は、バスの中から見学しました。

一旦ホテルに帰り、着替えて日本大使館での歓迎式典に参加しました。ドイツ人も多数参加して、リュネブルクから来たゲバル氏も参加していました。副大使が開会の挨拶をして始まりました。歓談のあとの食事は、日本食で美味でしたが、参加者が多く、料理は次々と追加されて、話も弾み、会場はとても賑やかになり、遅くまでパーティーが続き、タクシーで帰りま

した。

2日目も、市街バスで会場に向かい、途中でバスがドアの故障のために動けず、遅れそうになりましたが何とか間に合いました。会場ではイヤホンを通して同時通訳を聞くことができました。この会は、6年前に日本の金沢市で行われて以来、久しぶりの会合だったそうです。この間、コロナパンデミックによる中断が、会合には少し困難をもたらしたらしく、参加人員や経費の寄付集めをどうするかが大きな関心となっていました。日本大使館や日本企業の協力を得て、活発な活動を目的にしたいと、さまざまな意見を交わしていました。また、お互いに高齢化が心配で、若者の関心や参加を増やすにはどの様にしたら良いかとの討議は、翌日の会議の主な議題でもありました。

日本からの、ズームでの参加者も加わっての討論は、新しい試みらしく、司会者もまだ慣れていないためにあまり活発とは言えませんでした。

夕方からは日独交流パーティーが「サムライミュージアム」で行われました。各自で地下鉄やバスを利用して会場に向かい、現地集合です。早めに会場につき、館内の見学をしながらパーティー時間まで待ちました。館内が満員になる程の参加者が集まり、能舞台で和太鼓の実演、剣道の試技、踊りや合奏の演奏などがありました。パーティーは立食で、おにぎりやサンドイッチ、アルコールに飲み物、狭い場所ながら、賑やかな食事に話が弾む会でした。またまた夜遅くまでパーティーは続き、帰りはタクシーでした。

翌日も市街バスで会場に向かい、スムーズに会場につきました。この日は会議内容の発表と、次にグループ分けをしての討論会がありました。会議資料を受け取り、色々な参考資料も持ち帰りました。

この日の夕刻には、ベルリン・フィルハーモニーの演奏会があり、演奏会は満員でしたが幸いにも入場券を前もって日本で購入してしま

た。地下鉄とバスを利用して、フィルハーモニーホールに向かい、途中でドイチェバーン(DB)の駅に寄り、翌日のウエルツェン行きの切符を購入しました。43年前に、我が家に3ヶ月間ホームステイして以来親しく付き合っている、リューネブルク出身のアルムガルトさん(Armgart von Estorf 結婚してvon der Wense)の家(館)を訪問する約束をしていたからです。少し買い物と軽食を撮って、フィルハーモニーホールにバスで向かいました。ホールには大勢の人々が集まり、演奏会の人気の高さがよく分かりました。ロビーに入ると、人が溢れんばかりとなり、会場の中に入って座席に座ると、見る間に満席となる様子がわかりました。演奏は期待通りで、ブルックナーの交響曲第6番は素晴らしいの一言につきます。曲の終わった時の、満場の観客の拍手とどよめきが会場に満ちた感激は、忘れられないものになりました。

次の日はベルリン中央駅からICE(都市間超特急)に乗り、ウエルツェンに向かいました。約2時間の旅程で、駅には以前と変わらない親しみの溢れる笑顔のアルムガルトさんが迎えに来てくれていました。ホールデンシュテットの屋敷では、長男ゲオルグと長女エドビーナが迎えてくれて、すっかり大人になった二人に驚き、その歓迎に感心しました。昼食を摂りながらの歓談は懐かしく楽しいものとなりました。我々の翌日の予定があるために、今回は宿泊はせず、ベルリンへの帰路はエドビーナの運転する車で2時間、アウトバーンを走って送ってくれました。規則通りに走る上手で安心な運転でした。

ベルリン最後の日はベルリンのロータリークラブに出席するためにブランデンブルグ門そばにあるアドロン・ケンピンスキーホテルに向かいました。東西ドイツ統一後に新設されたベルリンで最高級のホテルです。ホテル2階のロータリーの会場でメーキャップ登録をして、集まった「ブランデンブルグ門ロータリークラブ」会員とともに例会の食事と、バナーの交換をして、卓話などの後、日本在住の経験のある医師も含めて、多くの医師が参加していたので、話が弾みました。

その後、クーダムで、ショッピングを楽しみ、日本へのお土産も買えました。次の日は早朝の出発のため、空港までタクシーに乗り、飛行機にスムーズに搭乗できました。8月の帰りの時は、着陸予定の関西国際空港に台風が接近・通過するとのことと色々大変でしたが、今回は何事もなく無事、関空に到着して、帰路につきました。

今もベルリンでの思い出は、携帯で撮り貯めた写真を手に取って見る度に、そのときの状況がありありと思い出されます。



訃 報

当協会顧問で前会長の藤倉睦男さんが、令和6年3月にご逝去されました。

藤倉顧問は、平成6年～平成23年までの長きにわたり、会長としてリューネブルク市との友好交流の発展に精力的に取り組まれ、多大な功績を残されました。平成16年には、その功績が認められ、ドイツ大統領より功労勲章功労十字小綬章が授与されています。

生前のご尽力に心より感謝いたしますとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

令和6年 鳴門日独友好協会事業報告及び後援・協力

月 日	事 業 概 要	場 所
1月24日	令和6年第1回鳴門日独友好協会理事会	鳴門市役所
2月6日	令和6年鳴門日独友好協会総会	アオアラ ナルト リゾート
4月18日～20日	18日 ・前夜祭 19日 ・2024年度全国日独協会連合会年次総会及び懇親会 20日 ・鳴門市・リュネブルク市姉妹都市盟約締結50周年記念コンサート&講演会 ・慰霊碑献花	18日 海鮮市場 魚大将 鳴門店 19日 鳴門市ドイツ館、アオアラ ナルト リゾート 20日 鳴門市ドイツ館、板東俘虜収容所跡地
5月19日	第40回ベートーヴェン「第九」交響曲演奏会 後援	鳴門教育大学
8月22日～31日 (青少年16日～25日)	第24回鳴門市姉妹都市親善使節団リュネブルク市訪問	リュネブルク スイス
10月10日～13日	日独パートナーシップデイズ2024	ベルリン日独センター
10月17日	香川日独協会・ボン独日協会姉妹提携30周年記念式典・祝賀会	JRホテルクレメント高松
11月22日	ドイツ大使館空軍大佐来鳴	鳴門市ドイツ館・ドイツ村公園

村澤会長がリュネブルク独日協会の名誉会員に

当協会の村澤由利子会長が、2024年8月8日付けでリュネブルク独日協会の名誉会員になりました。村澤会長は、1989年に第8回鳴門市姉妹都市親善使節団に初めて参加し、その後、17回にわたって使節団員としてリュネブルク市を訪問しています。2011年に会長に就任し、音楽を通じた交流はもちろん、さまざまな分野での姉妹都市交流の発展に精力的に取り組まれています。こうした功績が認められ、2024年8月25日、第24回親善使節団訪独中に開催されたリュネブルク独日協会主催お別れ夕食会において、ゲバル会長より村澤会長に証書が手渡されました。

会員一同、心よりお祝い申し上げます。



令和6年 鳴門日独友好協会 賛助会員へのご加入ありがとうございました

入会された皆様に御礼申し上げます。(順不同・敬称略・掲載了承会員のみ)

2口【個人：1名】岡田 弘子

【法人：14社】(株)花面商店、(株)徳島大正銀行 鳴門支店、(株)阿波銀行 鳴門支店、(株)テレビ鳴門、(株)なるとや家具店、(宗)高野山真言宗 寶珠寺、(株)大塚製菓工場、(株)丁井、吉成建設(株)、(株)亀井組、鳴門塩業(株)、富田製菓(株)、四国化工機(株)

1口【個人：4名】内田 佳香、近藤 龍彦

【法人：24社】(株)鳴門賃貸ハウス、(株)あさだ、一級建築士事務所 リフォーム工房 佐式、(株)NKK、(宗)極楽寺、(株)桶幸ウチダ造花、(株)アートエステート、リゾートホテルモアナコースト、(株)中岸商店、森田緑化(株)、(株)にし野、井上建設(株)、大鳴門橋架橋記念館、(株)うずしお汽船、(株)由井精良堂、(有)尾崎商店、(有)三幸工業、(株)今儀

賛助会員募集

～賛助会員へのご協力をお願いします～

鳴門日独友好協会では皆様からの支援を賜り、鳴門市とドイツの姉妹都市であるリューネブルク市及び日独両国の友好親善の発展に寄与するため、様々な事業を実施しています。皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

ご協力いただいた皆様への特典は、①会報誌の送付、②会報へのお名前と口数の掲載（匿名希望の方は掲載しません）、③主催事業のご案内です。

《年会費》一口5千円（何口でも結構です）

《期間》入会は随時受け付けております。入会期間は、1月から12月までの1年間となりますので、毎年1月に更新のご案内をいたします。

《入会手続き》鳴門日独友好協会事務局（鳴門市文化交流推進課内）にお問い合わせください。入会申込書の提出及び会費の納入方法についてお知らせいたします。

鳴門日独友好協会 会員：104名 賛助会員：43団体及び個人
リューネブルク独日協会 会員：168名（令和6年12月末現在）